

日バングラデシュ共同プレスリリース

2025 年（令和 7 年）5 月 30 日

1 5 月 30 日、東京において、石破茂内閣総理大臣は、公式訪問中のモハマド・ユヌス・バングラデシュ暫定政権首席顧問と会談した。

2 バングラデシュの独立以来の長い友好関係を想起し、双方は、両国間の「戦略的パートナーシップ」へのコミットメントを再確認した。また、双方は、全ての人のための平和、安定及び共有された繁栄を確保するため、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」に向けた共通のビジョンを再確認した。双方は、国際及び地域情勢について議論を行い、国連憲章の諸原則を堅持するとともに、地域及び国際社会の平和と安定を確保するための協力を強化することへのコミットメントを改めて確認した。さらに双方は、法の支配に基づく多国間主義及び民主主義への支持を確認した。

3 双方は、二国間関係及び共通の関心事項について突っ込んだ意見交換を行った。石破総理は、ユヌス首席顧問が率いるバングラデシュ暫定政権による国づくり、改革努力及び平和的な政権移行に向けた取組に対する日本の完全な支持を改めて表明した。ユヌス首席顧問は、特に「モヘシュカリ・マタバリ統合的インフラ開発イニシアティブ（MIDI）」を含む「ベンガル湾産業成長地帯（BIG-B）構想」の下でのプロジェクトを含め、日バングラデシュ二国間関係を推進する中でのバングラデシュの持続可能な経済成長と発展の促進に向けた日本の継続的な支援に対する謝意を表明した。

4 これに関連して、双方は、「経済改革及び気候変動に対する強靱性強化のための開発政策借款」及び円借款事業「ジョイデプール-イシュルディ間鉄道複線化計画（第一期）」の交換公文への署名を歓迎した。

5 さらに双方は、バングラデシュ投資開発庁（BIDA）におけるワンストップサービス（OSS）システムの導入、プリペイド式ガスメーターの設置、バッテリー駆動自転車工場の設立、情報セキュリティに関するパイロットプロジェクトの立ち上げ及びバングラデシュ経済特区（BSEZ）との土地協定に関するものを含む日本からのバングラデシュへの投資促進に向けた覚書の署名を歓迎した。双方は、互惠的な形での経済連携協定（EPA）の締結の重要性を強調し、それぞれの省庁及び交渉チームに対し、早期の合意に向けた交渉の加速化を指示した。

6 双方は、日本の OSA（政府安全保障能力強化支援）を通じたバングラデシュ海軍への 5 隻の警備艇の引渡しの早期実現を含め、政治・安全保障協力の一層の強化へのコミットメントを表明した。双方は、両国政府が防衛装備品・技術移転協定の実質合意に至ったことを歓迎し、同協定の早期締結への期待を表明した。

7 双方は、技能人材を含め両国間の人的交流を促進する方法について議論を行うとともに、文化的な関係を強化することで一致した。これに関連し、ユヌス首席顧問は石破総理に対し、無償資金協力「人材育成奨学計画」を始めとするバングラデシュにおける人材育成に対する日本の継続的な支援に対する謝意を示した。

8 石破総理は、バングラデシュがミャンマー・ラカイン州から強制的に移住させられた人々を一時的に保護し、継続的に人道支援を実施していることを称賛した。ユヌス首席顧問は、バシャンチャール島に所在する者を含め、避難民に対する日本の人道支援を高く評価した。日本はこの問題について引き続き取り組んでいくことを再確認した。双方は、避難民のミャンマーへの持続可能で安全で自発的で尊厳のある帰還を実現することが、この危機の地域全体の平和と安定のための最終的な解決策であるとの見解で一致した。さらに双方は、この危機を解決するための全てのステークホルダーの間の真摯な対話の重要性を認識した。

9 ユヌス首席顧問は、石破総理及び日本国民に対し、同顧問及び代表団に対する温かい歓迎と丁重なもてなしに深甚なる謝意を表した。また、石破総理に対し、相互に都合の良い時期にバングラデシュを訪問するよう招待した。